

声帯についての覚え書き

声帯は、体中の筋肉で制御する楽器のような仕組みを備えている。生まれもった身体や器官は、あらかじめ出力や性能の幅が決められている、なおかつ取り替えの不可能な部品の集合体のようなものだと思う。

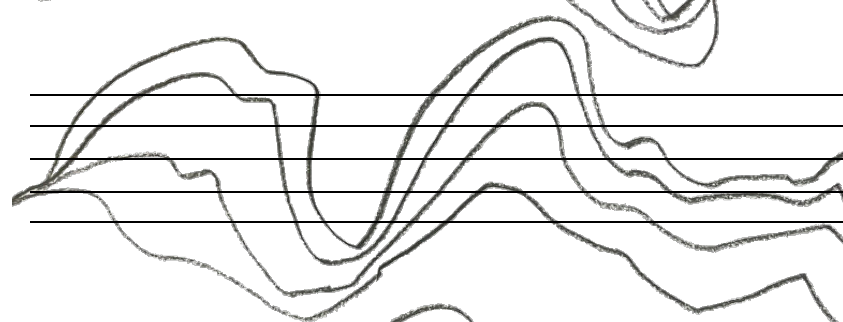
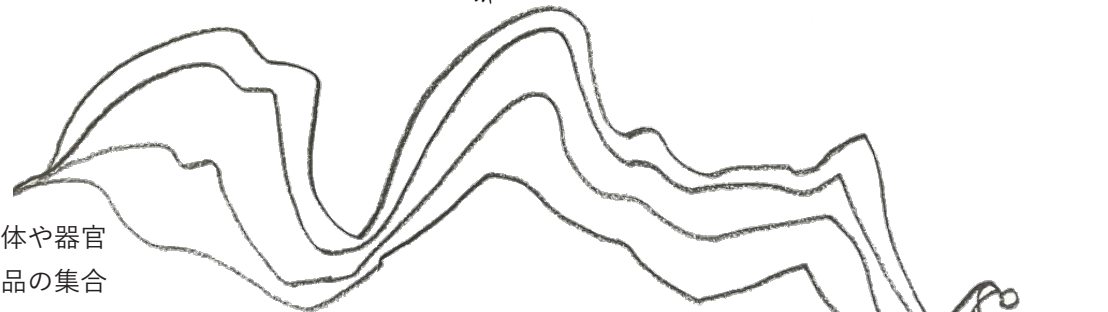
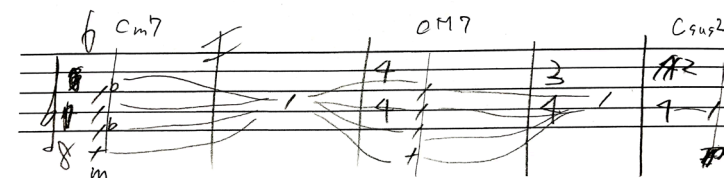
声楽やピアノを弾くのを辞め、音楽表現から離れた17歳頃から日常会話の中で言葉や声の詰まりに悩むようになった。

その対処を考えるうち、私はどんな環境で発声しづらくなるのか、言葉の詰まりが生じる状況や要因がだんだんわかるようになっていった。

(発声する室内環境の光量や、対話相手との身体の向き、呼吸する際の肩の位置、横隔膜の動き、腹式呼吸の応用、発音しにくいタ行で始まる言葉を言い換え、サ行を多用するなど)

私にとって電子部品を組み合わせてラジオや彫刻を制作する行為は、新しい体のパーツを作るような、自分自身の身体機能の回復を目指す感覚に繋がっているのかもしれない。

2024.8.14



《かなしいような ちょっと前向きな (B.O.)》多声によるハミング 2023

歌のためのドロ잉 2023